

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	117人	算数	117人	理科	117人
第5学年	国語	100人	算数	100人	理科	100人

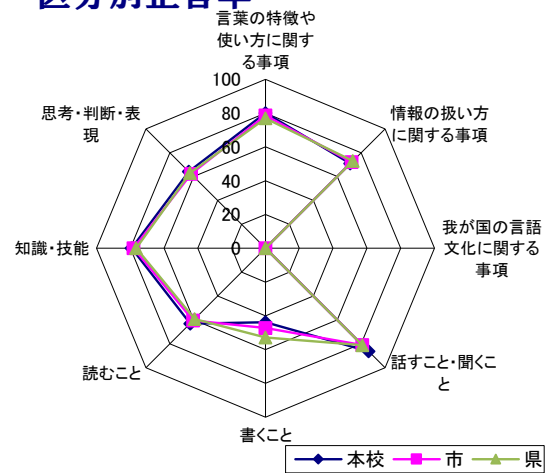
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.1	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	70.9	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	86.3	81.0	81.1
	書くこと	43.8	47.2	52.8
	読むこと	63.0	60.5	59.3
観点	知識・技能	79.2	78.0	76.5
	思考・判断・表現	64.1	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

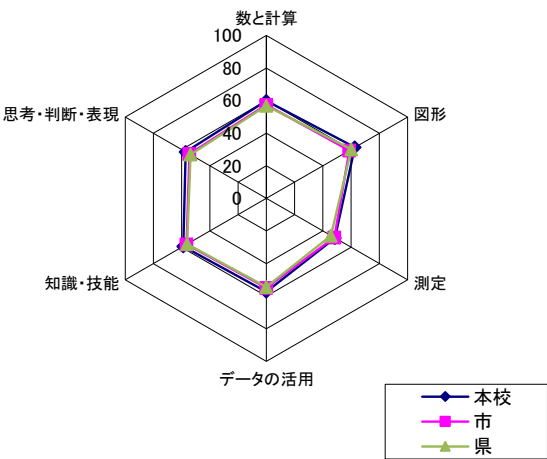
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○漢字の読みはよくできており、日頃の音読や漢字チャレンジ週間などの成果が表れている。 ●漢字を書くことには課題が見られる。送り仮名や使い方等を含め正しく理解する必要がある。	・漢字オリンピックや50問テストなども活用し、漢字練習を繰り返し行いながら、しっかりと定着できるようにする。 ・引き続き、宿題等で言葉の基礎・基本の問題練習などに取り組んだり、日記を書かせたりして語彙の習得や構成を考えた作文が書けるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ●国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ問題では、正答率が市の平均を1.3ポイント下回っている。	・今後も日常的に国語辞典を使う場面を意識的に増やしたり、読書や読み聞かせなどをしたりすることを通して様々な言葉に触れ合う機会を設けるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○話し方の工夫を捉える問題では、市の平均を上回っており、自分の考えを理由を挙げながらまとめることができている。	・今後も国語の授業で学習したことを生かして、普段から話を聞くときに自分の聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもって聞けるよう、必要なことをメモしたり、質問したりしながら話が聞けるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●自分の考えを明確にして文章を書くことや段落の役割について理解する問題では、市の正答率を4ポイント以上下回っている。 ●理由や事例を挙げて書く活動に課題がみられる。	・短い文章を書く機会を増やし、書くことになれさせるようにする。 ・授業やスピーチなどを通して、構成を意識して自分の考えを明確に書く機会を設けるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○物語文の叙述を基に場面の様子を捉える問題では、市の正答率を5ポイントを上回っている。 ●物語文で登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像する問題では、市の正答率を5.6ポイント下回っている。	・物語文の学習では、読む視点を与え、場面の移り変わりと結び付けながら、登場人物の気持ちを考えていくようにする。 ・引き続き、読書活動を充実させ、教科書に出てきた作者の本など、つながりのある本を読み、様々な表現に触れる機会を増やしていく。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.9	57.4	56.9
	図形	62.6	58.7	60.1
	測定	48.5	48.1	45.7
	データの活用	57.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	58.9	56.6	56.2
	思考・判断・表現	57.2	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

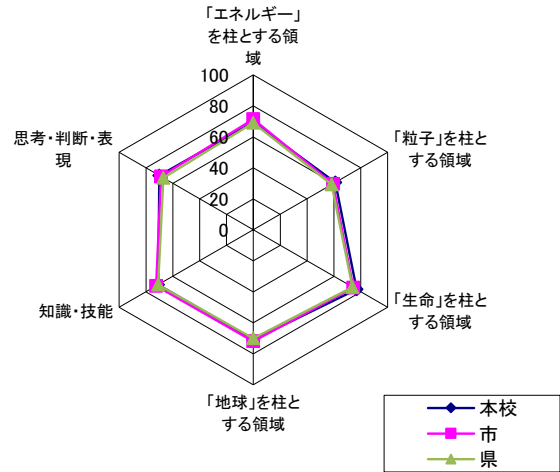
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○小数のしくみや表し方を答えたり、式を立てたりする問題では、市の平均正答率を大きく上回っている。また、分数や小数の数のしくみを理解し、計算したり説明したりすることができた。 ●余りのあるわり算で計算の間違いを説明する問題では、市の平均正答率を6.2ポイント下回っている。また、無回答が38.5%であった。	・引き続き、朝の学習の時間を利用したり宿題の内容を工夫したりして、基本的な計算の技能の習熟を図る。 ・日々の授業の中で、計算の仕方を考えたり説明したりする活動を充実させていくようにする。 ・間違いをどのように正しく直すかを考える問いを、意図的に行っていく。
図形	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○二等辺三角形の性質や球の半径や直径を利用して長さを求める問題では、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●作図をしたり、図を見て答えたりする問題では、市の平均正答率とほぼ同じだが、無回答が5ポイント上回っている。	・図形の性質は、直接触れたり作業する時間を十分とったりすることで身につけてきているので、引き続き実施していく。 ・コンパスや三角定規などを正しく使えるように、今後も作図する場面を意図的に設けるようにするなど、継続的な指導を行っていく。
測定	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○量りの目盛りを読み取り、重さを正しく答える問題では、市の平均正答率を約6ポイントと大きく上回っている。 ●時間と時刻の関係を理解し、問われた時刻を求める問題では、市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。	・日常生活で時間と時刻を意識するような言葉掛けをしていく。 ・時計だけでなく、帯や表など用いて様々な時間の表し方を知らせていくことで、問われた時刻を求められるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○必要な計算を行って、表に当てはまる数を答えることができた。市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ●棒グラフを選んだ理由を選択肢から選ぶ問題では、市の平均正答率を4.1ポイント下回っている。	・調べたものを分類・整理してグラフに表した時に、グラフから読み取れることを伝え合う活動を充実させるようにする。 ・他教科でグラフを扱う場面でも、グラフの特徴から適切なものを選んだり、どのようなことが読み取れるかを考えたりすることで、他教科にも生かされている実感をもって学習できるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.4	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	61.1	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	76.9	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	70.9	72.0	70.1
観点	知識・技能	70.9	72.5	70.9
	思考・判断・表現	70.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○輪ゴムの数と車が動く距離の関係を書いた文章を適切に述べる問題では、市の平均を上回っている。 ●風の強さとものを動かすはたらきの関係についての問題では、市の平均を下回っている。 ●明かりがつく回路とつかない回路を見分ける問題では、市の平均を下回っている。	・結果を表すときには、図や表、グラフなどを活用してまとめるようにする。 ・実験で正しい用語を使って指導し、体験と知識を結び付けるようにする。また、練習問題などを繰り返し行い、理解の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○粘土の形と重さについて提示された予想に沿う結果を選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ○実験結果から同じ体積でも材質の種類によって重さが異なることを答える問題では、市の平均を上回っている。 ●実験結果から推測して、重さを揃えた異なる材質のおもりから体積の大きさを考える問題では、市の平均を下回っている。	・実際に手に取って重さを感じてみたり、測定したりするなどの体験をすることを通して確かな理解へとつなげ、さらに様々な角度から考えさせるような発展的な問題を取り入れる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○観察した植物に共通のつくりを答える問題では、市の平均を上回っている。 ○昆虫のあしがついていいる部分を答える問題では、市の平均を上回っている。 ●ホウセンカが育つ順番に図を並びかえる問題では、市の平均を下回っている。	・図鑑やICTを活用し、言葉と実物、成長過程などを正しく理解できるようにする。 ・昆虫や植物を観察する学習では、特定のものだけでなく、様々な昆虫や植物なども観察し、学級で共通理解を図ることで理解を深める。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市の平均をやや下回っている。 ○太陽と日陰の位置関係位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ●方位磁針と温度計の正しい使い方を答える問題では、市の平均を下回っている。	・方位磁針や温度計の正しい使い方や測り方を身に付けさせるとともに、他教科での実践の場も増やしていく。 ・引き続き、実生活と理科の現象を結び付けた学習を進めていく。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「一か月に5冊以上本を読む。」と回答した児童の割合は54.5%で、県の平均より8.8ポイント上回っている。学級文庫の充実や日頃の授業での図書室の活用効果が表れている。今後は取組を継続し、学校での読書時間を確保するとともに、「家読(うちどく)」の習慣化を進めていく。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と回答した児童の肯定的割合は77.2%で、県の平均より5.8ポイント上回っている。学習することに対して主体的・能動的に捉えることで自ら問いを見出すことができている。今後も、児童の気付きや疑問を大切にしたい教育活動を推進していきたい。

○「自分の行動や発言に自信をもっている。」と回答した児童の肯定的割合は、74.8%で、県平均より7.8ポイント上回っている。日頃から、児童を認め励ます教育や、友達のよさを伝え合う活動を実施してきたことで、自尊感情が高められていると考えられる。今後も、継続して児童のよさを伸ばす指導や支援を行っていく。

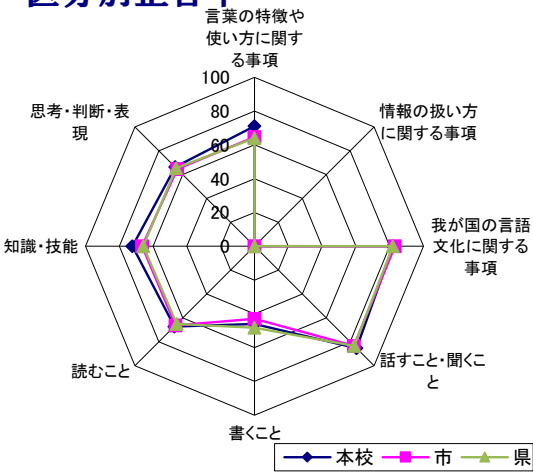
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した肯定的割合は82.9%で、県の平均より5.8ポイント上回っている。引き続き、授業の中で適宜グループ学習を取り入れていく。

●「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の肯定的割合は98.4%で、県平均より5.1ポイント上回っている。しかし、「家で、計画を立てて勉強している。」と回答した児童の肯定的割合は、69.9%で、県平均より4.4ポイント下回っている。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強している。」と回答した児童の肯定的割合は62.6%で、3.7ポイント下回っている。このことから、与えられた課題には取り組むが、自分で課題を見つけて取り組むことが苦手と考えられる。今後は、自主学習の取り組み方を例示するなどして、進んで自主学習に取り組めるように促す。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.1	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	85.3	83.3	83.4
	書くこと	46.0	42.8	48.2
	読むこと	67.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	72.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	66.4	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

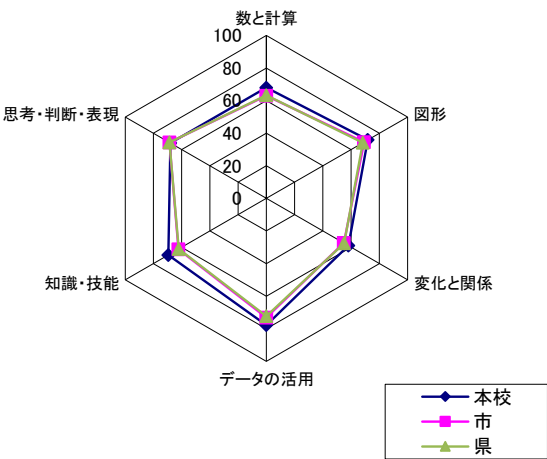
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○漢字の読み書きについて、平均を上回っているものがほとんどである。漢字オリンピックや50問テストなど、既習漢字の定着に向けた取組の成果だと考えられる。 ●漢字の読み問題で平均を下回っている問題があった。	・日常の中で漢字を使って読み書きする機会を増やしていく。 ・漢字オリンピックや50問テスト、小テストなどの取組を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ●ことわざについての問題では、意味を理解して自分の表現に用いることに課題が見られる。	・我が国の言語文化に親しみがもてるように、宮っ子ダイアリーを活用したり読書と関連付けたりするなど、生活の中でことわざや慣用語に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○話し手の工夫や自分の考えをまとめる問題はできている。それぞれ92%と89%と高い。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題や考えをまとめる問題には、課題が見られる。	・意見を述べるときに、相手を意識して分かりやすい伝え方を工夫したり、理由を付けて話したりすることを継続して指導する。 ・話し合い活動を行う際には、相手の話を聞き、自分の意見をまとめることができるような活動を取り入れていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を上回っているが、全体的な正答率が50%を下回っている。 ○指定された条件で文章を書く問題の正答率は市の平均をやや上回っている。また、七行から九行の指定の中で書くことはできている。 ●結果と考えるの二つの段落に分けて書くことに課題が見られる。無回答は16%だった。	・文章や表、グラフなどから読み取った事実を文章にまとめる活動を意識的に取り入れていく。 ・伝えたい内容について、文章を書く活動を通して、段落の分け方や文章の書き方について例示するとともに、事実と考えを分けて書くことができるように指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○登場人物の気持ちを読み取ったり、それに対する自分の思いをまとめたりする問題において、内容をよく理解できている。 ●物語文で、登場人物の性格や気持ちを具体的に想像することや文章を要約したり、選んだりすることに課題が見られる。	・物語文について、叙述を根拠にして、登場人物の性格や気持ちを想像しながら捉える練習をすることで、心情や人物の性格等を正しく理解できるようにする。 ・様々な文章に触れる機会を増やし、語彙力を増やすことができるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.0	63.0	63.3
	図形	71.8	69.2	68.3
	変化と関係	58.0	54.8	55.0
	データの活用	77.8	73.1	72.3
観点	知識・技能	69.5	62.3	62.1
	思考・判断・表現	68.1	68.7	68.7



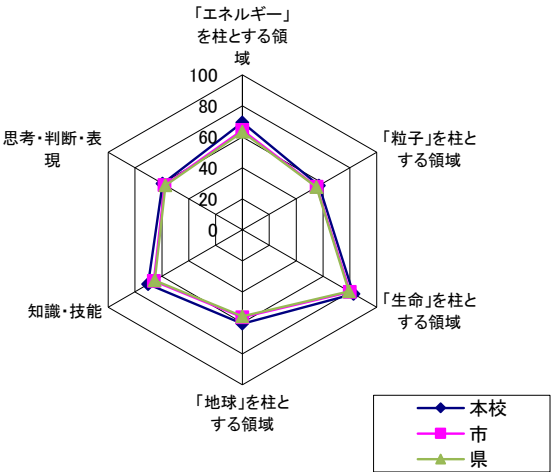
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を上回ってる。 ○小数×整数の計算や小数÷整数の計算に関する問題では、市の平均を大きく上回っており、小数のしくみについて理解している。 ○余りのあるわり算や1より小さい数の計算に関する問題では、市の平均を大きく上回っており、基本的な計算が身に付いている。 ●目的に応じた見積もりの考え方について説明する問題では、市の平均を5ポイント下回っており、概数についての理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や家庭学習等で、プリントやドリルなどを活用して基礎的な計算の力を高められるよう反復学習を継続していく。また、計算オリンピックの実施やAIドリルの効果的な活用にも取り組んでいく。 ・課題解決にするにあたり、答えの見当を付ける活動を取り入れて、おおよその数を求められるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める設問の正答率は、市の平均を大きく上回っており、三角定規の角の大きさを理解している。 ●ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題の正答率は、市の平均を下回っている。	・具体物やデジタル教材を活用して、図形の概念を理解できるようにする。 ・ものの位置の表し方について、基点から終点までの位置を言葉で説明させることで、「縦」「横」の位置関係で、理解できるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を読み取ったり、2つの数量の関係を式に表したりする問題の正答率は、市の平均を上回っている。 ●割合を使った問題の正答率は、市の平均を上回っているものの48.0%で課題が見られる。	・伴って変わる2つの数量について、縦や横に見るなどの見方について押さえ、変化を読み取れるように支援していく。 ・復習プリントを行ったり授業で再確認する時間を確保したりして、基準量と比較量を理解できるようにする。
データの活用	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○二次元の表を読み取る問題の正答率は、市の平均を上回っており、二次元の表の意味を理解できている。 ●折れ線グラフと棒グラフを読み取る問題の正答率は、市の平均を下回っており、グラフの読み取りに課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習等で、プリントやドリルなどを活用して反復学習を継続していく。 ・復習プリントを取り入れたり、社会や理科など他教科でのグラフの読み取りを積極的に取り入れたりし、グラフとグラフの関係性、グラフにおける関係性を理解できるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.3	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	57.1	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.7	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	60.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	70.3	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.6	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○図で示された回路における乾電池のつなぎ方を名称で答える問題では、直列つなぎの名称を理解し、正しく解答することができている。 ●乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうち、プロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ問題では、市の平均を2.1ポイント下回っている。	・回路の名称だけでなく、回路に流れる電流の大きさについて理解できるよう実験の目的を明確にして、理解が図れるようにする。また、児童が日常に目を向けて学びが続いていくよう支援する。 ・問題→予想→実験→結果→考察→まとめの流れの中で特に考察やまとめの時間を重視し、実験結果を言語化してまとめることで自身の理解を定着させるような活動を重視していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○ピストンを使って閉じこめた空気を圧した場合の手ごたえを答える問題では、正答率が高い。実験を通して、体験的に経験したことから定着が図られていると考えられる。 ●空気でっぽうの玉が飛ぶ仕組みを適切に説明している図を選ぶ問題では、空気は体積がおしちめられることを理解することに課題が見られる。 ●実験結果のようになった理由を温度による空気の体積の変化に着目して答える問題では、正答率が低い。	・「空気の性質」という目に見えない事象を扱う際に、モデル図を使うなど視覚的に表してから、自分の言葉で言語化してまとめることで理解を深めていく。 ・教師の演示実験で、いろいろなパターンで見せ、どれも温められた空気の体積が大きくなったことによるものであることを体験的に理解し、興味関心を高めることで日常の事象に目を向けて学習に結び付けられるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○ヘチマの成長記録が春夏秋冬の順に並んでいるものを選ぶ問題や、夏に記録された桜の様子を示した図を選ぶ問題では、正答率が高い。 ●骨の働きを説明した文章をすべて答える問題では、2つ選ぶところで1つしか選べていない等の誤答がある。	・骨格模型と人体模型を比べて観察したり自分の体を触るなどして実体験の中で理解できるようにする。 ・植物の季節による成長についてはよく理解できている。継続して学校花壇でのヒョウタンの観察や季節ごとの木の観察では、成長の変化が分かるように自分で考えた方法で表現するなど、思考力を高めていくような工夫をしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○実験結果から水がしみこみやすい粒の特徴を答える問題では、正答率が高い。 ●実験結果から水たまりのできにくい地面を選び、その理由を答える問題では、記述して答える場面での課題が見られる。 ●窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について述べた文章に当てはまる語句を選ぶ問題では、正答率が低い。	・実験結果の考察を重視し、自分の言葉で表現するようになる。 ・窓に結露がつく場面では、他にどんな場面があるか、児童自身に考えさせたり、実際に体験したりして、理解を深めていく。また、他にどんな場合があるかなど、経験の少ない児童に知識の幅を広げられるように、個人から全体に共有し、身近な事象に目を向けられるような態度を育てる。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に何さつくらい本を読みますか。」の質問に対して「11冊以上」と回答した児童の割合は28.4%で、県の平均を12.1ポイント上回っている。読書に対する意欲や関心が高められているため、引き続き、読書の推進に努めていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」と回答した児童の割合は43.1%で、県の平均を10.3ポイント上回っている。本やインターネットを活用することで、児童の学習への関心を更に高め、学習内容の定着を図っていききたい。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」と回答した児童の割合は81.7%で、県の平均を10ポイント上回っている。引き続き、学習したことを生活と結び付け、児童が学ぶことの楽しさや必要感を持てるように支援していききたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」と回答した児童の割合は60.6%で、県の平均を15.7ポイント上回っている。引き続き、ペア学習やグループ学習を取り入れ、児童が学び合う場を設けることで、学習内容の理解を深めていきたい。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」と回答した児童の割合は41.3%で、県の平均を5.7ポイント下回っている。授業の最後に、ふり返りの時間を確保し、児童が学んだことを実感できるように努めていきたい。

●「学校のきまりを守っている。」と回答した児童の割合は53.2%で、県の平均を6.1ポイント下回っている。横東スタンダードを活用して、家庭と連携しながら、学年の実態に応じた指導を継続することで、規範意識を高め、よりよい学校生活を送ることができるよう支援していききたい。

宇都宮市立横川東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・自分の考えを広げ深めるための交流の場の設定や発表方法の指導	・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童の肯定的割合は、4年生で83.4%、5年生で91.7%で県の平均を上回っている。 ・「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」や「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の肯定的割合は、4年生5年生ともに県の平均を上回っている。
基礎・基本の確実な定着	・AI型学習ドリルなどICTを活用した個に応じた指導の充実 ・朝の学習の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施	・4年生、5年生の国語算数の知識・技能の平均正答率は、市の平均を上回っている。
家庭学習の習慣化	・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導 ・「家庭学習の手引き」の効果的な活用	・「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の肯定的割合は、4年生で98.4%、5年生で99.1%と両学年ともに高いが、「家で、計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の肯定的割合は、4年生で69.9%、5年生で78%と全体的な肯定的割合が低くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
伝えたい内容について、事実と考えを分けて構成的に書く活動に課題が見られた。	・構成を意識して、自分の考えを書く活動の習慣化	・授業の振り返りや資料から分かることを書いたり話し合ったりする活動の充実 ・教科横断的な視点に立った授業の工夫